

7月20日 No1497

2020年(令和2年)

週刊 月曜発行

発行人 河村 勝志

平成元年9月22日 第3種郵便物承認

購読料 年 間 22,900円+税
(定価) 1部本体 495円+税

週刊 循環経済新聞

JUNKAN KEIZAI The Recycling Economy Times



植田徹也社長

東京都羽村市で、アーキエナジー(東京・港、植田徹也社長)がプロジェクトを企画・運営し、建設を進めってきた羽村バイオガス発電所が、このほど竣工した。食品廃棄物などを1日当たり約80t処理、年間約770万kWh時の発電能力を持つ施設で、産廃処分業の許可取得を待つて、8月にも営業運転を開始する。7月9日には、竣工式が行われ、羽村市長をはじめ関係者が出席した。

工業専用地域の100坪の敷地に建設された同発電所は、前処理設備は、合同会社羽村バイオガス発電をする。

運営主体に、西東京リサイクルセンター(植田徹也社長)がオペレース契約を締結してお

都市型食リ施設が竣工

羽村バイオガス発電所

東京で80t／日の受皿に

理棟、発酵槽、排水処理設備、発電設備で構成される。近隣と都内から受け入れた食品残さなどからバイオガスを発生させ、1100kwの発電機を24時間稼働させてつくった電力を、東京電力工ナジートナ上に売電する。

都内で食リの貴重な受け皿として竣工した羽村バイオガス発電所



運営主体に、西東京リサイクルセンター(植田徹也社長)がオペレース契約を締結してお

る。

このうち、総事業費は35億円。

このうち、22億円分相

当の設備について、三井住友&リ

ースプロジェクト・

ファイナンス型のリ

面につづく

(4)

ーションを行う。原料の受け入れを開始後、順調に行けば、10月には発電を開始できる見込みだ。植田社長は、竣工式のあいさつで、用地取得から4年の歳月を経て竣工に至った経緯に沿った形となつた。竣工式のトライインに立つことができた。地元に貢献し、雇用創出と安心・安全を提供しながら操業していくたい」と意気込みを語った。(4)

羽村バイオガス発電所

（1面から）
東京都羽村市で竣工
した羽村バイオガス発
電所は、アーキア工事
ジ一（東京・港、植田
徹也社長）が企画・運

営したプロジェクトとしては、2017年に竣工した牧之原バイオガス発電所（静岡県牧之原市）に続く第2の工場となる。「地産地消」

「消」や「地元貢献」にこだわった事業方針も、牧之原のプロジェクトから一貫して引き継いだ格好だ。

する。将来的には、発酵後に残る消化液を農地還元することも視野に入れる。

食品系・バイオマス



The image consists of two black and white photographs. The upper photograph shows a large industrial facility with several large cylindrical storage tanks or processing units. A sign in the foreground has Japanese text on it. The lower photograph shows the interior of a factory or processing plant, featuring a forklift in the foreground and various industrial pipes and structures in the background.

羽村での事業計画に
あたって、同社では当
初から▽原料の収集、
設備の運営、発生した
電気やその他の生産物の
消費までを完全に「地
産地消」で行う▽補助
金等を使わず、全額民
間資金によるプロジェ

具体的に地産地消の部分では、近隣または都内の事業所から1日当たり約80トンの食品残さを受け入れてメタン発酵・ガス化し、100キロワットの発電機で、地元地区の全世帯数を上回る2100世帯分相当の電力を供給

友&リースとプロジェクト・ファイナンス型のリース契約を締結しており、事業方針に沿った形となつた。

立った事業は、市の今後の発展にも大変重要であり、歓迎している。地域住民の安全・安心に細心の注意を払い、周辺環境の保全にも十分配慮いただきながら、事業を推進していくべきだ」といさつした。

働を予定している。並行して、23年稼働に向けて首都圏で計画している第5プラントについてもプロジェクト・ファイナンス方式での資金調達を開始する他、北関東地区でも2件のプロジェクトについて組成中という。